

新入社員に聞く就職活動に関する意識調査 2021

群馬経済研究所 主任研究員 丸岡美智世

～要約～

1. 群馬経済研究所では、主に県内企業に今年度入社した社員を対象に、①就職活動時に利用した情報源や就職先を決める際に重視したこと、②新入社員としての意識、等に関してアンケート調査を実施した。以下はその結果の概要である。
2. 就職活動の総合評価は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、『厳しかった』が47.3%となり、前回調査（2019年）を10ポイント上回った。
3. 就職活動で利用した情報源には、高校卒や短大等卒では「学校への求人票」が、大学等卒では「就職情報サイト」が最も多い。オンライン就活への参加経験者（短大等卒、大学等卒のみ）は全体の65%で、具体的には「選考面接」「企業説明会」等が多かった。
4. オンライン就活の評価は、「メリットがある」（56.5%）が「デメリットがある」（16.5%）を大きく上回った。自由回答をみると、メリットには、コストや時間の節約といった利便性の高さに関する意見が多い一方、社内の雰囲気がわからないといった指摘も多くみられた。
5. 就職先を選ぶ際に重視した点には、「職場の雰囲気の良さ」が最も多く、企業に実施・充実して欲しかったことには、「社員と話す機会」「具体的な仕事内容の情報公開・提供」が挙げられた。
6. 昇進に対する意識では、「特に考えていない」が半数を占めるなか、「主任・係長クラス」を中心に『ライン職での昇進』が4分の1で続いている。現在の勤務先で働きたい期間は、「当分、今の会社で勤めたい」が5割強と最も多く、前回調査を10ポイント近く上回った。
7. 採用活動に当たり、企業は就活生等に向けて①職場の雰囲気を伝えるため、普段の仕事の様子等の情報を企業のホームページやSNSを活用して従来以上に提供していくこと、②オンラインと対面による採用活動を組み合わせて、企業に対する理解を深める機会を設けていくことが望まれる。

キーワード：就職活動、企業選択、新入社員の働き方